

新春 一月二〇日(水)に

四国森林・林業研究発表会開催

令和三年一月二〇日(水)、局大会議室において、令和二年度四国森林・林業研究発表会を開催いたします。

今回で六七回目を迎える発表会では、当局管内の森林管理局及び署、教育機関並びに研究機関等で取り組まれた、日頃の研究成果について発表されます。

〔多様な発表課題〕

今回は、獣害対策や治山事業、ICT機器等を活用した調査、森林づくり活動等に関する発表が予定されています。

(写真は令和元年度の発表会の模様)



誌上 森林環境教育

草花と樹木の二酸化炭素貯蔵は？

地球温暖化は、二酸化炭素(以降 CO₂)、メタン、窒素やフロン化合物などの温室効果ガスの大気中の濃度が上昇し、熱が大気に蓄えられやすくなるために起こります。

その原因に、石油・石炭などの化石燃料の使用が挙げられています。

植物は、光合成により大気中のCO₂を吸収しますが、1年草がほとんどの草花は、吸収した炭素を、その年のうちに大気中に排出します。

しかし、樹木の場合は、樹体に炭素を蓄え続けることから、炭素貯蔵を生み出す森林保全が非常に重要になるわけです。

また、木材の利用は、家具や住宅として炭素を貯蔵するのに役立ち、バイオマスエネルギーは化石燃料を減らすことにつながります。

木のびっくり話(日本木材学会より)

編集後記

令和2年も師走に入り、朝夕、昼夜を問わず、寒さも一段と厳しくなりました。

毎日の体調に留意し、風邪・コロナ対策も万全にして、子(ね)年を乗り切りましょう。



「冬を越すトンボ」 って

日本には成虫で冬を越すトンボもいるのです。

オツネン(越年)トンボ(写真)・ホソミオツネントンボ・ホソミイトトンボの3種類。何れも腹の長さ3cm、翅の長さ2cmくらいの小さなイトトンボの仲間です。



ふつう昆虫は冬になると寒さや乾燥、あるいは敵から身を守るため、石の下や落ち葉の中、朽ちた木の中などに潜み、姿を隠し、めったにその姿を見ることができません。

オツネントンボの場合には、木の枝や枯れ草に止まって越冬しますが、体の色は褐色で形も木の枝そっくりなので、中々見つけることができません。越冬している場所は、比較的日当たりのよい斜面。雪が降った時、どんな行動をとるか。

雪が頭や翅に積もっても、平然と頭に積もった雪を避けるために少し動いたもの、あまりの大雪に体が埋まってしまったものなど様々です。

こんな姿を見ていると思わず「ガンバレ」と声をかけたくなくなってしまいます。

街の自然観察(矢野亮より)